

館山市における花壇作りの近況と花雑感

林 角 郎

1. JR 館山駅東口花壇のその後の植栽状況

前年の本誌 31 号にはこの駅前花壇について述べましたので、平成 23 年冬作の状況から記します。この冬作では、本誌 30 号でも述べたように、安房地区で初めて、大正 2 年にキンセンカの花を東京の築地市場に出荷して 100 年になるのを記念して材料を選びました。中心部からアイランドポピー、矮性ストックベイビー系、矮性キンセンカ、スイートアリッサムの順で単純な同心円型に植えつけました。しかしストックは早く花が終わったため、追加播種の苗を 3 月に株間に補植。その後、全体を 5 月連休すぎに撤去しました（写真①）。

次の年平成 24 年の夏作はすべてペチュニアのウェーブ系品種を使用して栽培しました。この品種については 30 号で述べました公民館における品種比較の試作結果から、秋の終わりまで開花を続ける品種を選び、以下の述べるテーマにより、8 つの尖りの星形を基本として、花色を分けて植えつけました。

この 8 という数字は戦国時代にこの地を統治した里見家に因むものです。一時は小田原の北条氏と市川国府台で戦うほどに栄えた里見氏も徳川幕府の時代になって元名 8 年に突然のお達しで現在の鳥取県倉吉市に移封となり、最後の当主里見忠義とその部下が館山

から赴き、8 年後に忠義は死去しました。忠義に仕えた 8 人の武士も君主の後を追って自刃し、その墓が倉吉と館山にあり、その 8 人を示すデザインなのです。現在館山市では、この里見氏の興亡を題材とした NHK の大河ドラマ化を望むグループが活動しているため、その動きを側面的に支援する意図もあります。その成否は別としても、この花壇が観光的な PR に役立つことを願う考えでしばらく続ける予定です。

この年の場合は、7 月に入って間もなくペチュニアが全面に枝を広げて花いっぱいとなり、その状況が秋まで続きました。当地では夏に全く雨の降らない期間が続きます。この年も 9 月半ばまで全く降雨がなかったため、落合さんともう一人のボランティアの方と 2 人がかなり努力して灌水を行いました。この努力の成果で、秋末まで開花が続きました（写真②）。

続く平成 24 年の冬作は同じ星形のデザインで、安房花作り 100 年記念をテーマとし、材料は前年度と全く同様なものとして、やや遅れて 12 月初めに植えつけ、5 月連休すぎまで栽培しました。しかしこの年は全国的に 12 月中頃から低温が続いて、生育、開花も遅れて、全面的に花が見ごろとなったのは 3 月頃から。ストックは 4 月末になって花が終わったために早く抜き取り、



① JR 館山駅前花壇 平成 23 年冬作
「安房花作り百年記念」 キンセンカ、ストックなど



② 同駅前花壇 平成 24 年夏作
「里見八賢士」 ウェーブ系ペチュニアのみ



③同駅前花壇 平成24年冬作
「安房花作り百年記念」キンセンカ、ストックなど



④館山市中央公民館の南花壇
通路側宿根草展示床と宿根草の植込み

残った花で5月の連休すぎまでもたせ、切り替えました（写真③）。

次の年平成25年度夏作は、前年の例から夏の乾燥に強い種類を選ぶようにし、それまでの中央公民館における栽培例から、中心部に宿根草ガウラを始めて採り入れ、その外側にセンニチコウ‘ローズネオン’と、次にジニアのザハラ八重咲き系のオレンジとピンクを。前年と同じ8稜の星形に交互に入れ、その外は円形にニチニチソウとパチュニア‘ウエーブピンク’を植えました。

植えつけは育苗の関係でやや遅れて、6月半ばとなりましたが、その後の発育は順調で、7月末にはいずれの株も花で覆われる状態になりました。しかし、この花壇を委託管理する会社が除草剤とともに多めに追肥を行ったようで、とくにジニアが過繁茂の状態になって倒れる株が若干出ました。その後、8月下旬に若干の降雨があって、倒れた株の下部から萌芽も見られるため、この後に葉が茂り開花するものと思われます（写真は次号）。

なお、中央部のガウラは今後、切り替え時に地上部だけ切って、その条間にアイランドポピーを植え、以後据え置きのまま利用の予定です。前号31号の記事で述べたような模様花壇に対する宿根草の利用を実証する予定です。

2. 公民館の花壇に宿根草の展示床を造成

平成18年から続けているボランティアグループで管理してきている館山市中央公民館の花壇では、栽培する品目のほとんどが宿根草となりました。一部はこぼれ種子で自然に芽生えたコキア、さらにザハラ系ジニア、センニチコウ等を空いた場所にグループの会員が

自主的に植えて、事実上花いっぱいとなっています。

その中で、これまでに述べている開花期間の長い宿根草の種類について、この花壇に沿う通路側に幅1mのボーダーを作り、そこに種類別に各品種1株あて植えて、展示栽培を行っています。この各種類の中の品種はこれまでの収集ではまだ不足しているため、後述するように国内外の会社からさらに苗や種子を購入。種子のものは育苗後植えております（写真④）。

一般に宿根草はかなり品種数の多い一部の種を除いては品種数が少なく、このため花色もそれぞれの種に固有な花色に限られる傾向があります。しかしこれまで述べているように、模様花壇に利用するためにはそれぞれの種で、より多くの花色の品種が必要となります。このためさらに多くの品種を扱う種苗会社を探していましたが、国内ではハーブ苗関係を扱う会社で、学名もつけてカタログ示している会社分かり、販売も1株単位で扱うため、足りない品種の苗を購入しました。また国外ではドイツのイエリト社が国内に代理店もあってカタログが容易に入手でき、販売する種子も少量から扱うため、そちらも利用して品種を集めています。

ただこうした種類や品種を集めるためには花壇の面積に限られるため十分なことができず。また栽培に協力するボランティアの人たちの好みもあって、トライアルに類する栽培には問題があるように思われます。むしろ他で検討された事例があればその情報を極力集め、目的を絞って苗購入を行う必要があるように思われます。

ただこうした宿根草の種類や品種については一般の方々も関心があり、花壇沿いの道を通る人が、立っている種名を記すラベルを、一つひとつ見ている光景を

よく目にします。また作業するボランティアの人たちにもこのラベルが大変役に立っているようです。

3. 「道ばた園芸」について

玉川大学に居られた田中宏さんは、以前に東京都区内の表通りから少し入った路地に面する家の入り口周辺を花や緑で飾るようすを、路地裏園芸と称していました。筆者もかつてテクノホルティ園芸専門学校東京校に勤務した折に、神田近辺の路地裏でこの情景をよく見かけましたが、このような園芸は現在も続いていると思われま

す。他方館山市内では、通りに面した店や家の前に花を栽培して飾る例をよく目にします。この場合は路地裏とは言えないので、道ばた園芸（ロードサイドガーデニング）と言ったらよいと思います。また、館山市のほか、鴨川市でも街の中の通りのわきにボーダー花壇の場が設けられたり框（かまち）が設置されたりして、折々の花が作られていますから、これも含めて考えられると思います。

館山市に限らず安房地域全体としては、時期折々に観光などで他からこの地を訪れる人が多いため、その人たちにとって道を通りながら見られる様々な花は、まさに花どころとして強い印象を与えるでしょう。これも少し前になりますが、旅行者が館山市内を通った折に、通りに面した各家の前を飾る花に強く印象づけられたとして、館山市役所に手紙で連絡してきたことがありました。市役所ではその花の存在は知っていたものの強く意識はしていなかったために、むしろ驚いたとのこと。確かに筆者が日常館山市内を通っていても、いろいろな花を目にすることがあります。現在はまだ名所と言える状態ではありませんが、花で飾



⑥館山市内商店前のガウラとガザニア白花品種の植込み

られた家や店がまとまって存在するようになれば十分観光素材になるものと思われま

す。この花作りの材料は、多くは通常の一年草が主体となっていますが、最近は宿根草も見られるようになっています。写真⑤は最近市の方で植えたヤシの木の下の花壇ですが、海岸近くの潮風にも耐えられるようにガザニアの黄花品種が植えられています。また写真⑥は同市内の駅近くの銀座通りと呼ぶ場所の商店の前に造られたガウラと白花のガザニアによる植込みです。これらのガザニアは少し前に花いっぱい運動などで他の花とともに配られたガザニア各色品種の中から、白と黄の株だけが残って、それから殖えたものと思われま



⑤館山市海岸通り
ヤシの下のガザニア黄花品種の花壇 館山市で植栽



⑦館山市内の店の前に植えられたプルンバゴ青花



⑧館山市内生垣の前に生育するランタナのオレンジ花

で開花しています。

このような自然の状態で、多年草や宿根草が生育する例が安房地区全体として、いくつか見られます。写真⑦のプルンバゴは館山市内の店先でインパチェンスとともに栽培されているものですが、この株が次のランタナとともに市内でかなり多く見かけます。なお公民館の花壇では、同種の白花の‘エスカートホワイト’を種子で購入して栽培していますが、館山市内では白花の品種はまだ見かけません。

次の写真⑧は住宅入口の生け垣のわきで生育していたランタナのオレンジ花品種で、毎年越冬して初夏から年末まで、見事に花を咲かせています。市内ではこのランタナ・カマラ（シチヘンゲ）の基本種の花色の株も多く見られ、中には大株になっているものもあり



⑨南房総市内 JR 千倉駅付近
駅近くの事務所前に生育する紅花の冬咲きメセン



⑩南房総市和田地区の国道沿い
国道のバス停前に植えられた冬季に咲くユーリオブスデージー

ます。このランタナは開花後に結実した種子がこぼれて翌春発芽しますから、このこぼれ種子からも殖えるものと思われます。なお、このプルンバゴとランタナの2種は館山市の公民館で栽培した場合は苗が若かったためか冬の低温で一部枯死する株も出ましたが、市内で見かけるものはいずれも何年も越冬しているようです。気象庁の気象情報では、館山は東京より冬季の最低気温が低い場合があるため、これらは安房地区以外の多くの地域の花壇用としても利用できるものと思われます。

次の写真⑨の冬に咲く紅花のメセンは JR 千倉駅近くのものですが、館山市内でも2、3見かけます。種名はランプランツスと思われるが、年末から4月頃まで咲き続けるため、冬花壇に利用できるものと思われます。

また最後の写真⑩のユーリオブスデージーは南房総市和田地区内の国道のバス停わきに列植されたものです。この種類はかなり各地で栽培されていますが、この例は大株でまとまって咲いているため、冬の景観によいと思われます。

筆者がこれまで本誌で述べています公民館の花壇作りや駅前花壇の設計の活動は、つまるところ、安房地域全体でさらに多くの花作りの拡大進展が望みといえます。その具体的な表現としては、以上述べたような道ばた園芸の普及と、それを容易にするために新たに取り入れるべき宿根草の開発ということになるといえます。

この道に面した花作りで、今回は宿根草を中心として述べましたが、一般には一年草を利用するケースが多いので、その事例も今後述べさせていただきます。